

第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人静岡大学

1 全体評価

静岡大学は、「自由啓発・未来創成」の理念に基づく質の高い教育、創造的な研究及び未来を担う人材の育成を通して、人類の平和と幸福及び諸科学の発展に貢献し、地域社会とともに発展することを目指している。第3期中期目標期間においては、理工系イノベーションや地域の諸課題に取り組むことができる人材の育成、主体的・能動的学習の推進、世界レベルの研究の推進と世界的研究拠点の形成、地域社会との協働及び大学の国際化等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究			○			
社会連携			○			
その他			○			
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

企業・財団等と協働し、豊かな地域資源等を活用して新たな豊かさを生み出せるような人材を育成していく取組「静大発“ふじのくに”創生プラン」の一環として、「地域志向科目」や「キャリア形成科目」を全学必修化するとともに、低学年向けの仕事観察型インターンシップ「ワークラーしずおか」を開始し、企業向け説明会、県内企業とのインターンシップマッチング会、就職支援・インターンシップ相談カフェ、出張相談等を実施している。また、静岡大学の特色ある研究3分野を戦略的に重点化し、それらを超領域に展開する超領域研究推進本部を設置しており、学内外の研究者との異分野交流を促進する超領域研究会や、国際シンポジウムを継続的に開催しており、重点研究分野の国際学術論文数の増加につながっている。

一方で、「教育に関する目標」の項目1事項について、「中期計画を十分に実施しているとはいえない」ことから、改善に向けた取組が求められる。

（業務運営・財務内容等）

静岡大学の強みである光電子工学と浜松医科大学の強みである光医学の両方の素養を備えた高度専門人材の育成を目的として、大学院共同教育課程「光医工学専攻」を設置し、光医学と光・電子技術の融合分野で博士（光医工学）の学位を授与する大学院教育を開始している。また、県内企業と連携したアジアブリッジプログラムの設置に伴う外国人留学生の居住環境を整備するため、長期借入金と既存敷地の財産処分による収入により、静岡・浜松両地区に外国人留学生寄宿舍を新築するとともに、教職員宿泊施設を留学生寄宿舍へ用途変更する整備を実施している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果				○		
②教育の実施体制			○			
③学生への支援		○				
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する目標			○			
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」2項目が「順調に進んでいる」1項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)4項目のうち、3項目が「進捗している」1項目が「十分に進捗しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定がおおむね「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 地域・グローバル人材の育成

平成27年度に「アジアブリッジプログラム (ABP)」及び「ABP副専攻」、平成28年度に「地域創造学環」、平成29年度に「地域づくり副専攻」を設置し、学際教育及び教育の国際化を推進しており、地域の求める人材やグローバル人材の育成を図っている。「地域創造学環」では令和元年度には最初の卒業生49名を輩出し、56%の卒業生が県内の企業・自治体等に就職している。(中期計画1-1-1-4)

(特色ある点)

○ アクティブ・ラーニングの推進

全学教育科目における地域志向教育や国際教育に関する科目を充実させているほか、シラバス上に各授業科目が実施しているアクティブ・ラーニングの種別を記入することとした結果、アクティブ・ラーニング科目は平成27年度の366科目から令和元年度の680科目 (86%増) へ、フィールドワーク科目は平成27年度の111科目から令和元年度の174科目 (57%増) へと増加している。(中期計画1-1-1-1)

1-1-2 (小項目)

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-1-3 (小項目)

【判定】中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない

(判断理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「修士課程の教員就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。

43 静岡大学

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 専門分野横断的な教育の推進

平成29年度に設置した「山岳科学教育プログラム」、平成30年度に設置した「産業イノベーション人材育成プログラム」及び「光医工学研究科(光医工学共同専攻)」等により、文理融合を含む専門分野を越えた教育を推進しており、高度な専門性と社会性を備えた理工系人材及び地域の求める人材の育成を図っている。(中期計画1-1-3-3)

(改善を要する点)

○ 大学院修士課程の教員就職率の状況

教育学研究科修士課程修了生の教員就職率について、平成28年度57.5%、平成29年度78.1%、平成30年度71.9%、令和元年度71.4%となっており、目標値80%を達成することは困難と判断されるため、教員就職率の向上策についてさらに工夫する必要がある。(中期計画1-1-3-2)

1-1-4 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-2教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、オンデマンド型授業によるオンライン教育を実施している。感染症拡大以前から、オンライン教育推進室を設置し、オンライン教育の質向上に取り組んでいたことも役立てており、オンライン授業の学修状況確認アンケートでは7、8割の学生が肯定的な評価をしている。また、学生から課題の量についての意見があったことから、オンライン教材の質保証のためのチェック項目を作成している。

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由） 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

1-3-1（小項目）

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果「実践的キャリア教育の充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 実践的キャリア教育の充実

企業・財団等と協働し、豊かな地域資源等を活用して新たな豊かさを生み出せるような人材を育成していく取組「静大発“ふじのくに”創生プラン」の一環として、「地域志向科目」や「キャリア形成科目」を全学必修化するとともに、低学年向けの仕事観察型インターンシップ「ワークラリーしずおか」を開始し、企業向け説明会、県内企業とのインターンシップマッチング会、就職支援・インターンシップ相談カフェ、出張相談等を実施している。これらの取組の結果、インターンシップ参加者数は、平成27年度の345名に対し、令和元年度には1,116名となっている。また、平成29年度の全卒業者の県内就職率が41.1%であるのに対し、県内インターンシップ参加者の県内就職率は59.6%となっている。（中期計画1-3-1-4）

43 静岡大学

(特色ある点)

○ 障害学生の学修支援体制の充実

障害学生支援室において、平成29年度から静岡キャンパスに常勤教員1名を配置し、東海地区障害学生支援フォーラムにおいて運営委員として地区の連携・協力体制確保を推進するなど、学内外で支援の充実を図っている。また、令和元年度から浜松キャンパスの障害学生支援室特任教員の週勤務時間数を増やし学修支援の充実につなげており、これら体制の強化により、障害があり支援を受ける学生数は、平成28年度の26名から令和元年度の62名に増加している。さらに、「共生社会とピアサポート」という授業科目を2年次生向けに開講し、学生の意識向上を図っている。(中期計画1-3-1-3)

1-4 入学者選抜に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」1項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、2項目が「優れた実績を上げている」1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果「重点研究分野の戦略的推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 重点研究分野の戦略的推進

静岡大学の特色ある研究3分野を戦略的に重点化し、それらを超領域に展開する超領域研究推進本部を設置しており、学内外の研究者との異分野交流を促進する超領域研究会や、国際シンポジウムを継続的に開催している。その結果、重点研究分野の国際学術論文数は、令和元年度一人当たり2.76編となっており、平成27年度に比べ6.6%増加、国際論文における国際共著比率は31%となっており、平成27年度に比べ29%増加している。

(中期計画2-1-1-2)

43 静岡大学

2-1-2 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果「光技術研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 光技術研究の推進

光時空間遠隔制御技術等に関する研究開発を推進しており、「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」において、光創起サテライト拠点（浜松医科大学、光産業創成大学院大学、地元民間企業と共同）として参加し、ウェアラブル脳情報計測技術の開発等を行っている。なお、COIプログラムは、研究開始後4年目から6年目間の中間評価でS+の評価を得ている。(中期計画2-1-2-2)

(特色ある点)

○ 地域防災に関する研究成果の発信

静岡県と「行政職員防災講座事業に関する協定書」を取り交わしており、令和元年度から自治体職員を対象とした防災講座を実施し、研究成果を地域社会に還元している。また、防災総合センターにおいて、静岡県の地域防災に関する研究成果を発信するため、静岡新聞社から『静岡の大規模自然災害の科学』を令和元年度に出版し、地域防災に貢献している。(中期計画2-1-2-3)

2-1-3 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

2-2 研究実施体制等の整備に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

2-2-2 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域連携応援プロジェクトの推進

「地域連携応援プロジェクト」は、学生・教職員が主体となり、地域の人々や団体、自治体等と協働で取り組む地域活性化につながる活動を支援することで、地域連携・地域貢献の芽を育てるプロジェクトとして、平成23年度より継続して実施しており、外国人児童の学習支援事業等、地域と連携した活動を展開し、毎年度15件程度のプロジェクトが進行している。また、プロジェクト開始時から毎年度成果報告書を刊行しており、第3期中期目標期間中の新たな取組として、進捗状況を紹介するウェブサイトの設置、地域連携メールマガジンの配信及び「静岡大学地域連携報告会」を開催するなど、媒体や方法を改善しながら広報活動の充実を図っている。(中期計画3-1-1-1、3-1-1-4)

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

4-1-2 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(2) 附属学校に関する目標

理数才能教育推進を行う「浜松トップガンプロジェクト」では、地域の産業界からの資金援助を受けながら、公立の小・中・高校生も対象とした理数教育を実施している。

小中一貫校が増加する地域の学校教育活動に貢献するため、小中一貫教育カリキュラムの開発、小中一貫校に関わる教員の研修の場として附属学校を活用している。

43 静岡大学

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 理数才能教育の推進事業

静岡県西部地区から強く求められている理数才能教育推進のため「浜松トップガンプロジェクト」を立ち上げ、地域の産業界7社、1大学、1行政機関から資金援助を受け、公立学校の児童生徒も参画する事業を推進し、地域の理数教育発展に貢献している。また、事業に参画した卒業生への追跡調査を行うなど、事業の検証・改善を行い、地域に貢献する理数教育モデルの確立に取り組んでいる。

○ 小中一貫教育への取組

附属浜松小学校、中学校では静岡県西部地区の小中一貫教育校の増加に伴い、教育学部教科学研究開発センター、浜松市教育委員会等と連携した小中一貫校化の実施に向けて4-3-2のカリキュラム開発、教員の研修等を行い、同地区を中心にその成果を還元している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化
<p>【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(理由) 中期計画の記載15事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。</p>
<p>＜特記すべき点＞</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 光医工学共同専攻の設置</p> <p>静岡大学の強みである光電子工学と浜松医科大学の強みである光医学の両方の素養を備えた高度専門人材の育成を目的として、大学院共同教育課程「光医工学専攻」を設置し、光医学と光・電子技術の融合分野で博士（光医工学）の学位を授与する大学院教育を開始している。医学系学生が工学系の授業を、工学系の学生が医学系の授業を受け、工学系の学生が医療現場に入って医療ニーズを探索する、医学系の学生が光・電子機器開発現場での課題を理解するなど、特色あるプログラムにより、医療イノベーションをもたらす人材を育成している。</p>
(2) 財務内容の改善に関する目標
①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善
<p>【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(理由) 中期計画の記載4事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。</p>

43 静岡大学

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載6事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 多言語視聴が可能な動画を活用した広報の展開

広報委員会、広報室、情報基盤センター及び静大テレビジョンが連携して、学部等の紹介動画（「全体紹介」、「ダイジェスト」、「教員紹介」、「在校生メッセージ」の構成）を日本語版と英語版で制作し、ウェブサイト及びスマートフォンでの閲覧を可能としている。また、動画共有サイトの翻訳機能を活用して各国言語（104か国語）による字幕での視聴を可能としている。クラウド&コンピューティングによるウェブ動画サイト「静岡大学テレビジョン」では、日本マイクロソフト社との連携により、「反転授業支援システム」を作成し、授業支援、学生の予復習を自宅で行えるビデオ製作・配信を実施することにより、学生の多様化（留学生、社会人学生）に対応している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 多様な財源を活用した整備手法による整備

県内企業と連携したアジアブリッジプログラムの設置に伴う外国人留学生の居住環境を整備するため、長期借入金と既存敷地の財産処分による収入により、静岡・浜松両地区に外国人留学生寄宿舍（収容定員合計190名）を新築するとともに、教職員宿泊施設を留学生寄宿舍へ用途変更する整備を実施している。民間金融機関からの資金調達に加え、用地売却による財産処分収入、リノベーションの活用等、多様な財源・手法を活用し、全学的な教育改革・組織改革と連動した施設整備を行っている。